

2022年度 中部医師会連合第2回地域包括ケア特別委員会 報告書

日時：2022年9月25日（日）13：35～15：35

場所：名古屋マリオットアソシアホテル 16階アイリス

出席：炭谷副会長、松岡理事、寶田理事、竹野主事

※他県医師会出席者については別紙出席者名簿参照

協議事項

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 題

（3）介護報酬改定への要望について

静岡県

ACP、サービス担当者会議に対する算定があればよい。

石川県

- ・ICT、デジタル機器を導入する時は補助金が出るが、機器の交換時期に加算がないと施設の持ち出しになるので、それに対する加算がほしい。
- ・処遇改善加算の算定方法をシンプルにしてほしい。
- ・外国人雇用にあたり、現行の報酬では少ない。入国手続きや機構への支払い等外国人だからこそこかるコストがあるため、その分の加算がほしい。

富山県

- ・介護報酬算定の加算内容が多く、高齢者への説明にも苦勞している。住民に分かりやすい表現やサービス料金体制にしてほしい。
- ・訪問介護（ヘルパー）の介護報酬、訪問入浴の報酬単価を上げてほしい。
- ・老人保健施設入居者のコロナ罹患患者の診療に関しての介護報酬の加算を認めてほしい。
- ・老人保健施設での「死亡看取り」した場合に、特別養護老人ホームに認められるような算定を認めてほしい。
- ・介護の現場でIT機器を用いることで効率アップができるが、補助がないため、持続的に管理運営することが困難になっている。何らかの補助をお願いしたい。
- ・老人保健施設の施設長の欠員に対して、特別な事情がある（急病・急死など）場合、非常勤医師での対応や常勤医師の就任までの猶予期間（3カ月程度）を認めてほしい。

福井県

- ・認知症（自立度Ⅲ程度）の人の介護報酬を増額してほしい。
- ・ロボットやICTの活用について助成制度があるが、使用できる機器に柔軟性を持たせてほしい。
- ・早朝、夜間、深夜加算、ターミナル加算、医療の退院支援指導加算、特別管理指導加算と同様の加算の追加ならびに要支援者の単価を上げてほしい。
- ・人材確保のため、介護報酬を上げてほしい。
- ・口腔衛生管理加算は歯科衛生士の計画作成、口腔衛生管理を月2回以上等要件が多いため、要件を緩和してほしい。

- ・認知症専門ケア加算の研修は需要が高く、受講機会が少ないため、広く受講できるようにしてほしい。
- ・処遇改善加算が、「介護職員処遇改善加算」「介護職員等特定処遇改善加算」「ベースアップ等支援加算」の3本立てになっているため、1本化に向けて検討してほしい。
- ・LIFEの入力が煩雑なため、1本化してほしい。
- ・ケアマネジャーの資格を取るための研修時間が長く、負担が大きいため検討してほしい。

三重県

- ・介護職員処遇改善加算の対象者は「実際に介護の業務を行う介護職員」となっており、生活相談員、看護師、栄養士などの他職種は基本対象外のため、すべての職員を対象にしてほしい。
- ・デイサービスは延長の加算は取れるが、入所者を早朝に連れてくる場合の加算がない。また、日祝年末年始に加算があればよい。

岐阜県

- ・介護施設、特別養護老人ホームに入所している医療的な器具がついている人に加算をつけてほしい。また、自立度Ⅲ以上でないと入居できないため、要件を緩和してほしい。
- ・デイサービス 延長は加算がとれるが、入所者を早く預けに来る時はその分の加算が取れない。また、日祝・年末年始に加算があればよい。

静岡県（質問）

今回、本委員会で話し合われる介護報酬改定への要望は、どこまでの範囲のものを要望すればよいのか。診療報酬は医師の意見が反映されるシステムになっているが、介護報酬はそのシステムがあるのか。

委員長（回答）

介護報酬については医師だけのものではないため、多職種からの情報も重要である。本委員会は中部医師会連合の諮問委員会であるため、第1回第2回で話合ったことを11月の委員総会で報告し、日医に意見を挙げていく。

（4）「地域包括診療加算・地域包括診療料に係るかかりつけ医研修会」の開催について

静岡県 日医の進めるままにやっている。

石川県 県独自ではやっていない。日医のeラーニングを利用していく予定。

富山県 日医の2019年度版のDVDにて研修を行っている。今年度は11月23日に実施予定。

福井県 日医の2019年度版のDVDにて研修を行っている。県独自での研修が難しいため、eラーニングを利用してお願している。

三重県 日医のDVD研修の動向を見て今後の動きを決めたい。

岐阜県 2019年までは日医が開催する研修会を同日ライブ配信していたが、2020年以降は県医師会では実施していない。地域医師会ではDVD研修を2019年1医師会、2020年3医師会、2021年3医師会が実施している。

（静岡県）重層的支援体制整備事業について

静岡市で実施している。行政へ実施にあたり、職能団体を集めた協議会を開いてもらい、そこに医師会が入り、参画していくことを要望している。

（石川県→静岡県）認知症サポート医リーダーについて

認知症サポート医リーダーはどのような方をお願いしているのか。石川県では、近年、勤務医のサポート医の取得が進み、人数は増加したが、実際に誰が担当してくれるのかわからなくなっている。以前は医師会から推薦し、この地域はこの先生にとお願いしていたが、ある時から一気にサポート医が増え、どうしたらよいかと思っている。

→認知症サポート医自体は国が決めたもので、中学校区に1人置いてくださいとのことで始まっている。初めの頃は、初期集中支援チームにサポート医が入ってもらっていたが、実際には初期集中支援チームは介入しておらず、地域包括支援センターが中心となり、認知症を診てくれる医師と対応していた。そこで認知症サポート医の中核としてサポート医をまとめいくリーダーを作り、サポート医活動を活性化していくためにリーダー養成を始めた。リーダーは特定の先生をお願いしているのではなく、広く募集し、研修を受けてもらっている。

（石川県→福井県）ふくいみまもり SNS の使用アプリについて
福井県内に「ふくいメディカルケアネット（医療連携システム）」があり、そのメーカーの富士通（ヒューマンブリッジ）の SNS をこれから構築していく。

（富山県→石川県）かかりつけ医認知症対応力向上研修会の実施方法について
富山県ではフロンティアの DVD（120 分）を使用して研修を行っている。研修時間が長時間の為、石川県での実施方法について伺いたい。

→石川県では座学は県単位で認知症に携わる講師による講義 90 分（DVD は使用していない）を年 2 回実施している。事例検討会は各地域で 2 回ずつ実施しており、5～6 人のグループを作り行っている。

初回は県知事から修了証が出るが、要件としては、座学を 1 回、事例検討会は 2 回の参加としている。

4. 閉 会